# 道徳学習指導案

指導者　　大野　耕作

1　日　　時　　平成 24 年 11 月 19 日（月）

2　学　　年　　第５学年１組　28 名　　［５年１組教室］

3　主　題　名　　働くことの意義　［４－（４）　勤労・奉仕］

4　資　料　名　　「壁新聞が教えてくれたこと」
「六枚の壁新聞」（角川 SSC 新書）をもとに作成

5　主題設定の理由

○　働くことは,自分や家族の経済的な生活を豊かにしていくことだけでなく,働くことによって,自分の属する集団や社会をよりよくしていくという社会的な意義がある。そこに自分の社会的な役割や責任が存在し,そのことを主体的に果たしていくことで自分の仕事に誇りと喜びを見出し,生きがいをもって取り組めるようになる。

近年，若年層において社会的に自立ができない人が増えている。要因として様々なことが挙げられるが，働くことが単に自分の生活を豊かにするという意識に止まり，仕事を通して社会に役立っていこうとする意識の低さも要因の一つとして考えられる。高学年のこの時期になると，学級の当番や委員会活動など自分の仕事にも慣れ，与えられたことをきちんとやろうとするようになる。しかし,「仕事はやらなければならないもの」という受け身的なとらえも大きくなり，自分から集団や社会のためにできることをやろうとする主体的な働きかけが少なくなりがちになる。

だからこそ，仕事を他者とのつながりの中で考え，その意義や役割を理解することは，望ましい勤労観や職業観を育む上で大切なことである。自分の仕事は他者とつながっており，集団や社会生活の向上に役立っているものである。そのことに児童自身が気付いたとき，自分の仕事や役割に対してやりがいや喜びを見出し，主体的に仕事に取り組む態度が芽生えてくるようになる。そうすることで，周囲と共に活動する楽しさや，社会の役に立つ喜びを感じることができ，さらなる意欲の向上と共に，自己肯定感や自己有用感の向上にもつながっていくと考える。

○　本学級の児童は，学級の当番活動を始め，委員会活動，行事の準備・片付けなど自分が担当した役割や決められた仕事はきちんと果たそうとする。だが，与えられた仕事以外のことを率先してやろうとする姿はあまり見られず，夏季の林間学校では，カレー作りや清掃活動において，自分の仕事を終えるとおしゃべりをしたり遊んでしまったりすることも多く，気を利かして作業をする児童に任せがちになっていた。

アンケート調査の結果,『積極的に仕事や役割を果たしている』と回答した児童は 80%（20 人／25 人）であり,『あまり積極的にしていない』と回答した児童は 20%（5 人／25 人）であった。『積極的に活動している』と回答した理由としては,「仕事が楽しいから」「自分が中心になってやっているから」「やらなければならないから」という理由が多く,『あまり積極的に活動していない』と回答した理由としては,「面倒になることがあるから」「人にまかせても大丈夫と思って

しまうから」という理由が大半であった。

これらのことから，児童は『積極的に仕事をしている』という自己評価はしているものの，それは自分の与えられた仕事をやっているという意識に止まり，全体のことを考えた上で，自分が何をしたらよいのか,何を果たしていくべきなのかといった意識まで及んでいないことが分かる。これは，児童が引き受けた仕事の内容や興味によって左右されたり,「仕事はきちんとやらなくてはいけないもの」というとらえはあるものの，受け身的な義務感で支えられている面が大きかったりするためであると考える。そのため，全体のために自分ができることを進んで見つけようとする意識が低く，主体的に自分の役割や責任を果たし，集団の利益を考えて積極的に仕事をしていくことの大切さや喜びが十分に感じられていないと考える。

○　本資料「壁新聞が教えてくれたこと」は，昨年に起こった東日本大震災の際，手書きで新聞を発行し続けた石巻日日新聞の記者たちの奮闘を綴った話である。記者自身も被災者であり，家族の安否も分からないままであったが，ライフラインや情報源を失った市民のために懐中電灯を照らしながら紙とペンだけで新聞を発行する。避難所での生活やがれきの山を通って取材を続ける中で,「本当に自分のすべきことは新聞を書くことなのか，もっと周囲のためにできることがあるのでは」という迷いを抱くこともあった。だが情報源を失った市民にとっていかに情報が心の支えになるのか，そして復旧の様子を伝える記事がいかに人々に希望や勇気をもたらすことになるのかということを知り，自分の仕事の存在意義や社会における役割を再認識するようになる。このような記者の戸惑いにふれながら，記者自身がどのような喜びをもったのか考えていくことは，自分の仕事の意義を見つめ直し，集団の大きな目的のために主体的・積極的に仕事をやろうとする意欲を高めるよい契機となると考える。

指導にあたっては，新聞を発刊し続けることが市民の支えや喜びになり，社会における自分の仕事の意味を再認識した石巻日日新聞のわたしの思いに寄り添いながら学習を展開していく。

導入では，東日本大震災の映像を視聴させ，当時の状況や惨事の様子をとらえさせる。その中で，新聞が止まることなく発行されたことを伝え，資料への興味を持たせる。

基本発問では，応援や救護が必要な状況の中，新聞を書くことに疑問を抱いたわたしの気持ちを話し合う。その際，みんなの力になりたいが，自分のやっていることに意味があるのか，人を傷つけてはいないかという迷いや心苦しさを押さえ，わたしの気持ちに寄り添えるようにする。中心発問では,「今伝えることが大事」という言葉が強く心に響いたわたしの思いを話し合う。その際，自分の仕事には意味があり，自分が頑張ってきたことが無駄ではないことに気付いたわたしの喜びと，人々の役に立てることをもっとやっていきたいと思う気持ちを整理しながら，壁新聞を通してわたしが得た学びを明らかにし，どんな仕事にもそれぞれの意味や意義があることに気付かせていく。展開後段では，児童が普段取り組んでいる委員会や当番の仕事に対する感謝の言葉を読ませ，自分の生活をふり返るようにする。感謝の言葉は，事前に委員会や行事などでかかわりのある下級生や先生にコメントを書いてもらうようにし，自分ががんばってきた仕事が他者の喜びにつながっていることを感じさせるようにする。

終末は，働くことの意味や意義について，農業や漁業，製造業など社会科や総合的な学習の中でかかわりのあった方々の言葉を伝え，余韻をもって終えるようにする。

6　準備物

写真，ＶＴＲ，ワークシート

7　ねらい

○　「今伝えることが大事」という言葉が強く心に響いたわたしの気持ちを話し合うことを通して，働くことの意義に気付き，公共のために進んで役に立とうとする道徳的態度を養う。

8　本時のポイント

自分の仕事には意味があり，自分が頑張ってきたことが無駄ではないことに気付いたわたしの喜びや人々の役に立てることをもっとしたいと思う気持ちに気付かせるために，中心場面での話合いにおいて，意見を出し合った後，少人数のグループで自分が共感できる思いがあるか交流させ，日常の経験や体験と重ねて考えさせるようにする。

9　指導過程

| 段階 | 学　習　活　動 | 主な発問と児童の心の動き | 指導上の留意点 |
|---|---|---|---|
| 導入 | 1　東日本大震災の映像を視聴し，困難な状況の中でも手書きの新聞が発刊されたことを知る。 | ○ライフラインが遮断された中，懐中電灯を照らしながら，手書きで新聞が発行され続けました。なぜ，そこまで記者達は新聞を発行し続けたのでしょう。 | ○　東日本大震災の映像を見せ，当時の町の様子や市民生活の状況を説明する。特に，ライフラインや情報源が遮断された時の様子を押さえておく。 |
| 展開前段 | 2　資料「壁新聞が教えてくれたこと」を読み，新聞を書くことに疑問を抱いたわたしの気持ちを話し合う。 | ○避難所での生活を目の当たりにし，新聞を書くことに疑問を抱いたわたしはどんな気持ちだったのでしょう。<br>・記事を書いてもみんなが読める状況ではない。<br>・避難所での大変さを書くとさらにみんなの気持ちが沈んでしまう。<br>・今記事を書くより，救護や救援など自分がほかにできることがあるのではないだろうか。情報に何の意味があるのだろう。 | ○　新聞が発行されるに至った経緯を確認し，あらすじをつかませる。<br><br>○　避難所での生活や応援を求めた人々の様子について写真を提示しながら説明する。 |
| | 3　「新聞を読んで勇気をもらった」という声を聞いたわたしの気持ちを話し合う。 | ◎「今伝えることが大事」という言葉が強く心に響いたたわたしに，どんな思いがあふれてきたでしょう。<br>・新聞を発行してきてよかった。<br>・自分の仕事の大切さが分かった。<br>・新聞を通して，自分が人々の役に立っていることが嬉しい。 | ○　ワークシートに考えを書かせてから，全体で話し合う。<br>○　わたしの思いを話し合う中で，わたしが「何を」壁新聞 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | ・自分ががんばった分だけ，人々の力になることができる。自分のやったことには意味がある。<br>・新聞を楽しみに待っていてくれる人がいる。その人のためにもがんばりたい。<br>・まだまだ自分はやれることがある。みんなの役に立てるようにがんばりたい。 | から教えてもらったのか明らかにしていく。<br>○　わたしと同じような思いが日常生活でもないか投げかけ，自分の経験と重ねて感じられるようにする。難しい場合は，展開後段のコメントを先に読ませ，考えさせる。 |
| 展開後段 | 4　下級生や先生方からの「感謝の言葉」を読み，自分の生活をふり返る。 | ○みんなが普段がんばっている委員会や当番の仕事ぶりに対して感謝の言葉が届いています。<br>・図書委員会の読み聞かせは，毎週あって大変だったけど，下級生がこんなにもよろこんでくれて嬉しい。<br>・毎日の朝掃除は時々面倒だったけれど，たくさんの先生方が自分のがんばりを見ていてくれた。 | ○　事前に委員会や行事などでかかわりのある下級生や先生方にコメントを書いてもらい，児童ががんばってきた仕事が他者の喜びとつながっていることを感じさせる。 |
| 終末 | 5　教師の説話をする。 | ○農業や漁業，製造業など社会科や総合的な学習の中でかかわりのあった方々の言葉を伝える。 | ○　写真を提示しながら言葉を読み，余韻をもって終えるようにする。<br>○　学習で感じたことを「他者視点」「自己モニター」を意識してワークシートにまとめさせる。 |